



TITLE:

京大広報 No. 197

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 197. 京大広報 1980, 197: 1129-1132

ISSUE DATE:

1980-05-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209489>

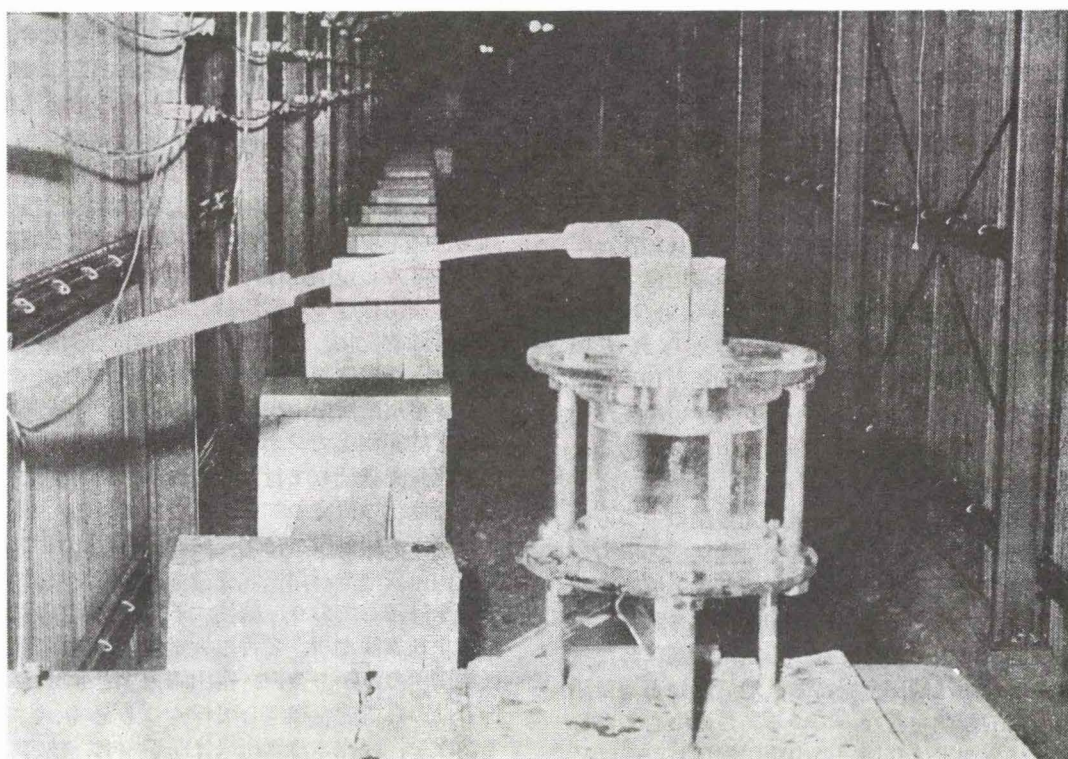
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 197

京都大学広報委員会



山腹に掘削した防災研究所・上宝地殻変動観測所，蔵柱観測坑道
—関連記事本文2ページ—

目 次

4月28日の現場検証..... 2	日 誌..... 4
＜紹 介＞	昭和55年度創立記念日行事
防災研究所・上宝地殻変動観測所..... 2	音楽会の開催..... 4
＜随 想＞	
省エネルギーと食糧生産…名誉教授 渡辺庸一郎… 3	

＜大学の動き＞

4月28日の現場検証

4月28日（月）未明、本部時計台前広場の四つ

目垣が破壊されていた。警察への被害の届出に基づき現場検証が本学関係者立会の上、同日午前10時50分頃から同11時33分頃まで行なわれた。

＜紹介＞

防災研究所・上宝地殻変動観測所

上宝地殻変動観測所は第1次地震予知計画により、中部地方北西部の地殻変動と地震発生の関連性を研究する目的で、昭和40年に防災研究所附属の研究施設として設置された。本観測所は飛騨高山の北東約20kmの山中深く岐阜県吉城郡上宝村本郷に位置するが、この上宝村にはほかに防災研究所附属穂高砂防観測所と理学部附属飛騨天文台の2研究施設があり、京大の一研究センターの観がある。本観測所の北方約15kmには国内第1級の活断層の一つといわれる跡津川断層が延長約70kmにわたって走っており、1586年天正飛騨地震（ $M=7.9$ ）や1858年飛騨・越中地震（ $M=6.9$ ）はこの断層の動きによって起ったものと考えられている。この周辺地域では1961年、1969年、1972年にマグニチュード6を超えるかなり大きい地震が起っており、また最近では御岳で火山爆発があるなど地殻活動が盛んな場所である。

本観測所は発足以来、地震予知観測の一つの前線基地として防災研究所の関係研究部門と協力しながら観測を行なってきたが、第3次・第4次地震予知計画で観測体制が飛躍的に強化された。現在本観測所は飛騨地方北部から富山南部にわたって8か所の衛星観測室を持ち、地殻変動と地震活動の総合的観測を行なっている。この中心である上宝蔵柱観測室は花崗岩の山腹に掘削した総延長173mの観測坑道を持ち、ここには高感度の伸縮計、水管傾斜計、水平振子傾斜計、ひずみ地震計、長周期地震計、短周期地震計のほか温度計、気圧計、雨量計など約30成分に上る多数の観測計器が設置されている。このほか、地殻変動観測は跡津川断層周辺など3か所、地震活動観測は断層を囲む3か所で行なわれているが、最近名古屋大学理学部附属高山地震観測所との間でローカル・データ交換システムが完成したため、さらに3観測点の地震観測データが入力され、地震観測点は合計7か所となった。これらの衛星観測室で得られた地殻変動と地震波の観測信号の大部分は日本

電信電話公社専用回線を通じテレメーター方式により本観測所へリアルタイムで搬送されており、ここで集中記録を行なっている。これと同時に、ミニ・コンピューターによってデータ処理をし、震源決定や地殻歪・傾斜の解析を行ない、この地方の地殻活動状況を常時監視している。また観測信号の一部はさらにテレメーターによって宇治市五ヶ庄にある防災研究所へ転送され、ここで他観測所のデータと総合して広域にわたる地殻活動の研究が進行中である。

このような観測をもとに行なわれている研究には、地殻歪・傾斜の永年変化、地球潮汐振幅の時間的変化、地震発生前後の歪・傾斜変化と地震のメカニズムとの関連性、跡津川断層周辺、北アルプス、高山付近の地震活動と発震機構、地震波速度の時間的変化、遠地地震の観測による地殻・上部マントル構造の研究などである。またこのほか、跡津川断層の中央部と西端付近、本観測所周辺など約30測線でジオディメータをもちいて光波辺長測量を継続して行なっており、断層変位や地殻歪変化の研究のデータとなっている。

将来、本観測所では未だ観測が行なわれていない富山県東部や石川県北部にも観測点を増設することを計画しており、隣接する防災研究所附属北陸微小地震観測所、名古屋大学理学部附属高山地震観測所のほか、金沢、富山両大学とも密接に連携しながら研究を推進して行くことを考えている。なお、現在本観測所には助手1名、技官2名が勤務している。

（防災研究所）



上宝地殻変動観測所

日 誌

(1980年4月1日～4月30日)

- | | | | |
|------|---|---------------------------------------|--|
| 4月4日 | 中華人民共和国西安市友好代表团团长(西安市人民代表大会常务委员会主任)陳元方氏外9名来学, 総長と懇談および工学部施設見学 | 員会委員長) Léon Eckhoutte 氏外4名来学, 関係教員と懇談 | |
| 5日 | 名誉教授称号授与式 | 12日 | 発明審議委員会 |
| 〃 | 退官教授懇談会 | 〃 | 中華人民共和国中国社会科学院代表团团长(中国社会科学院副院長)宦郷氏外9名来学, 総長と懇談 |
| 7日 | アメリカ合衆国日米核融合調整委員会委員 Michel Roberts 氏外7名ヘリオトロン核融合研究センター訪問, 関係教員と懇談 | 14日 | 総長, 職員組合と交渉 |
| 8日 | 評議会 | 18日 | 同和問題委員会 |
| 〃 | 大学院審議会 | 〃 | 環境保全委員会 |
| 〃 | 保健衛生委員会 | 19日 | 国際交流委員会 |
| 10日 | 医療技術短期大学部入学式 | 22日 | 評議会 |
| 11日 | 学部入学式 | 23日 | 防火委員会 |
| 〃 | 大学院入学式 | 25日 | 体育指導センター管理運営委員会 |
| 〃 | フランス国フランス上院議員調査団(文化委 | 28日 | 組換えDNA実験安全委員会 |
| | | 30日 | 名誉教授称号授与式 |

昭和55年度創立記念日行事音楽会の開催

本学では、創立記念日(6月18日)を祝し音楽会を下記のとおり開催いたします。本学教職員、学生の皆さんの来聴を歓迎します。

演奏者 久保 陽子(バイオリニスト)
 広中 孝(ピアニスト)
 日時 昭和55年6月9日(月)午後6時開演
 場所 京都府立勤労会館
 京都市中京区烏丸丸太町下ル
 (市バス烏丸丸太町下車)

演奏曲目

バッハ パルティータ第1番 ハ短調
 BWV 826 (ピアノソロ)
 ベートーベン バイオリンソナタ第5番
 ヘ長調「スプリング」
 サラサーテ チゴイネルワイゼン
 マスネ タイスの冥想曲
 ポルディーニ 踊る人形
 クライスラー 愛の悲しみ
 クライスラー 愛の喜び
 クライスラー いとしのロスマリン

演奏者略歴 久保 陽子

3才よりバイオリンを始め、11才から桐朋学園教授ジャンヌ・イスナール女史、斎藤秀雄氏に師事。1960年毎日新聞社・NHK共催第22回音楽コンクール第2位入賞。1962年第2回チャイコフスキーコンクール第3位入賞。1963年パリ留学、ルネ・ベネッティ、ジョセフ・カルベ諸氏に師事。1964年バガニーニ国際音楽コンクール第2位入賞。1965年ロン・ティボー国際音楽コンクール第2位入賞。1967年スイスにて、故ヨ

ーゼフ・シゲティ氏に師事。イタリア、クルチ財団主催の第1回国際コンクール第1位受賞。1970年より演奏活動から遠ざかっていたが、1977年、6年ぶりにリサイタルを開き、感性豊かな素晴らしい演奏で、大成功を収めた。最近では、各地で主要オーケストラと共演するとともに、桐五重奏団の第1バイオリン奏者としても活躍している。

演奏者略歴 広中 孝

6才よりピアノを始め、東貞一、井口愛子、井口基成諸氏に師事。桐朋学園高校音楽科を経て、同大学音楽部に進む。1961年毎日新聞社・NHK共催第23回音楽コンクール第1位特賞ならびに安宅賞を受賞。1963年～1965年米国ジュリアード音楽院に留学し、ゴロニツキー教授に師事。1967年渡仏し、1968年第1回シフラ国際コンクールで第1位金賞。1969年ロン・ティボー国際音楽コンクール第4位入賞。以後、本格的な演奏活動に入り、海外への演奏旅行や、N響をはじめ国内のオーケストラと共演して活躍する一方、1974年には、桐五重奏団を結成して、1976年のデビューコンサート以来高い評価を得ている。現在、我が国の最も充実したピアニストの一人として活躍している。

入場無料

備考 1) 職員証または学生証を持参してください。

2) 定員1,300名先着順とします。

(学生部)